

落語家・露の新治さん「お笑い人権高座」にいたる道のりを語る

落語と狭山事件が変えた私の人生

②

落語との出会い

18歳で、市大と大阪外大(大阪外国語大学。現在は大阪大学外国語学部)を受けて滑り、はじめて挫折した。私学は下にみて、受けてもない。そのくせ勉強にも身が入らない。「これはアカン」と思いながら、終日テレビを見てポーツとすしし、夕方になるといたたまれないような焦りを感じた。はたからみると「甘い」だけですが、自分では「地獄」でした。

すね。笑いながら涙ぐんでました。朝日放送が1997年にABCホールでおこなった「1080分落語会」も、弁当2食分もって聞きに行った。どうしても

夜間中学設立にかかわって

大阪府(のちの心齋橋筋立ホール)の2丁目劇場)に行くと、市原みちえさんが、夜間中学(以下、夜中)を設立しようという配っていたんですよ。その頃は、奈良か大阪の天王寺夜中に通っていた。けれども、大阪府教委は府外からの通学は受け入れないと言いだし、天王寺夜中の岩井好子さん

や大阪の依羅小学校の遠藤幸子さんら、在奈良の日教組ネットワークが夜中立ち上げへと動いていた。奈良は解放同盟青年部、総評青年部や奈良総評もしっかりしていた。

わけです。はじめて人に教えた。ものすごくいい経験でした。居場所もない、仕事もない、スキルもない、資格もない、生きてゆく自信もない、何もない私のような人間を、おばちゃん・おっちゃん「先生」と呼んでくれる。精一杯それに

て、夢中で聞いた。聞いたから覚える。覚えると、やってみたくなるわけです。市大2部の文化祭があったら、「高津の富」をやったら、ウケたんですよ。それで味をしたら、中学校を力で支

そうして、一方では落語配してた在日生徒、生野や猪飼野、今里の在日がこんなに大勢いないことも勉強した。部落と身近に接したこともない私の心のなかに、部落差別があるということがみえてきた。

第70回文化庁芸術祭賞大衆芸能部門優秀賞と奈良人権文化財団の第6回奈良人権文化選奨を昨年、受賞した落語家・露の新治さん。落語家、そして「お笑い人権高座」にいたる道のりを語る。3回連載の第2回。

うもないとき、ラジオの深夜放送で笑福亭仁鶴師匠が行き場もない、どうしようもないとき、ラジオの深夜放送で笑福亭仁鶴師匠が

岩井さんたちは、すぐに実現しない奈良の公立夜間開設運動を継続しつつ、大阪府に閉め出された奈良の夜間中学生のため、と

た。いまは奈良大附属高校という正強学園高校。その教職員組合・正強学園労働組合が運動を支持して、校舎の一角を学校に掛け合っ

た。いまは奈良大附属高校という正強学園高校。その教職員組合・正強学園労働組合が運動を支持して、校舎の一角を学校に掛け合っ

た。いまは奈良大附属高校という正強学園高校。その教職員組合・正強学園労働組合が運動を支持して、校舎の一角を学校に掛け合っ



落語家 露の新治さん

文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞した落語「中村仲蔵」を演じる露の新治さん(7月23日・奈良市)

た。いまは奈良大附属高校という正強学園高校。その教職員組合・正強学園労働組合が運動を支持して、校舎の一角を学校に掛け合っ

た。いまは奈良大附属高校という正強学園高校。その教職員組合・正強学園労働組合が運動を支持して、校舎の一角を学校に掛け合っ

た。いまは奈良大附属高校という正強学園高校。その教職員組合・正強学園労働組合が運動を支持して、校舎の一角を学校に掛け合っ

た。いまは奈良大附属高校という正強学園高校。その教職員組合・正強学園労働組合が運動を支持して、校舎の一角を学校に掛け合っ

落語家・露の新治さん「お笑い人権高座」にいたる道のりを語る

「うどん学校」から奈良市立春日夜中への運動のなかで露の新治さん自身が手がけた通信類や奈良市長などへの陳情書。いままで手元に大事に保管されていた

うどん通信

署名カンパに御協力も

うどん通信

署名カンパに御協力も

た。27歳になってました。(つづく)